

★自分のフラワーアレンジメント作品で江府町をもっとおしゃれにしたい

「フラワーデザインスタジオ春の袖」加藤 浩美さん



モダンなドライフラワーのブーケ。お祝いのあともずっと飾っておけますね♪



▲武庫駅すぐのアトリエはこの看板が目印です。

「素敵!」と、思わず声が出ます。アトリエにはドライフラワーの概念が変わるようなモダンなブーケがありました。フラワーデザインスタジオ「春の袖」を主宰する加藤浩美(かとうひろみ)さんは昨年7月、大阪から夫の故郷である江府町に家族5人で移住してこられました。以前から押し花関連の小物を自宅の一室で製作・通販をしていましたが、移住するにあたり、同町武庫に古民家アトリエを構え、規模を拡大してドライフラワー作品の製作に乗り出しました。生花ではなくドライフラワーを材料とすることは、鮮度保持を気にすることなく製作できる利点があるそうです。時には自宅前で採ったススキを乾燥させて材料にも使われていますが、地元産の材料にこだわりすぎないのも作品世界の幅を広げていることでしょう。作品は、ブーケ、インテリア小物、アロマキャンドルと多岐にわたり、江府町のふるさと納税返礼品にも採用され、人気を博しています。

地元のNPO法人に紹介してもらったアトリエは、まさに「自分の城」。以前の作業スペースの3倍近い広さの一軒家を借りられたので、在庫の保管から作品の展示、来客との打ち合わせまででき、何より自宅とは別の場所で朝から夕方まで集中して製作に打ち込めるようになったことは「江府町に来て本当によかった」と実感できる点だそうです。

「江府町は本当にいい人ばかりの町です。アトリエを紹介してくれたNPO法人の方も私がイベントに出たときに顔を出してくれ、いいお付き合いが続いています。暮らしは不便なこともあるけれど、だからといって米子市に住みたいとは思いません。将来の夢は、ハンドメイド雑貨も扱う、花をテーマにした喫茶店を国道沿いに持つことで、そこがたくさんの人が訪れる江府町のおしゃれなスポットになればいいな、と思います」と加藤さんは語ります。

山あいの町でのんびり暮らし、趣味を楽しむ…というのではなく、視線はしっかり事業の発展に向いています。田舎暮らしにこだわるわけではないけれど、その一方、江府町だからこそできるという加藤さんの創作活動の広がりで、未来の江府町は「花のまち」にもなっているかもしれませんね!



▲この時計や製作机は江府町役場旧庁舎の備品譲渡会でゲットしたそうです♪



▲鋭意製作中の加藤さん

☎日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

今後、新型コロナウイルス感染症の第8波とインフルエンザの同時流行も予測される中で、オミクロン株対応ワクチンの接種も始まっています。

鳥取大学医学部ウイルス学分野 景山誠二教授にワクチン接種のポイントを教えていただきました。

● オミクロン株対応ワクチンとはどのようなものですか

オミクロン株対応ワクチンは、mRNA(メッセンジャーRNA)ワクチンの一つで、従来株とオミクロン株の2種類のmRNAを成分として含む「2価ワクチン」です。従来のワクチン(従来株のmRNAのみを成分として含む「1価ワクチン」と比較して、現在流行しているオミクロン株に対する重症化・感染・発症の予防効果が強いことが期待されています。

また、異なる2種類の抗原(体内で免疫反応を誘導する物質)があることにより、誘導される免疫も、より多くの種類の新型コロナウイルスに反応するため、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いと期待されます。

● オミクロン株対応ワクチンにはどんな副反応がありますか

ファイザー社、モデルナ社製ともに、主な副反応として、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等がありますが、ほとんどが軽度又は中等度で、これまでに接種を経験したワクチンと比較して、はっきりとした差異はなく、現時点では懸念は認められないことが確認されています。

ただし、新しい種類のワクチンのため、接種後に気になる症状がみられた場合は、かかりつけ医にご相談ください。

● インフルエンザ予防接種は、同時に受けてもいいですか

オミクロン株対応ワクチンは、インフルエンザワクチンとの同時接種が可能です。

ただし、その他のワクチンは、オミクロン株対応ワクチンと同時に接種できません。

この場合、一方のワクチンを受けてから他方のワクチンを接種するまでに2週間以上あけてください。

● ワクチン接種対象年齢の引き下げのおしらせ

11月1日から県内での乳幼児(生後6か月~4歳児)のワクチン接種も始まりました。2回目接種後の発症予防効果は51%と報告されています。この機にかかりつけの小児科医と相談の上、お子様への接種をご検討ください。米国では2ヶ月間に100万回接種のペースで使用され、副作用はあっても軽いと報告されています。

☎日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



表紙写真

タイトル:下蚊屋の荒神神楽

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:江府町下蚊屋に伝わる県無形文化財指定・下蚊屋荒神神楽(明(みょう)神社・小椋和美会長11人)。今回は、その内の5人が名高い出雲神話を題材にした「八重垣の中の大蛇(オロチ)退治」を披露。神楽囃子の素朴な太鼓と笛の音が館内に響く中、素戔嗚尊(スサノノミコト)が2頭の大蛇を退治するというストーリー。観客の訪日外国人旅行者は、「ワーオ、スバラシイ!」と拍手を送り、短い時間でしたが演舞を存分に楽しませていました。